

■ 概要

平成 23 年 5 月、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産の早期登録実現に向けて、大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市の 4 者が一体となって取り組む体制として、百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議を設立。

今回（第 11 回）の会議では、今年度の国内推薦資産選定見送りを受け、新たに 28 年度の国内推薦資産への選定、30 年度の世界文化遺産登録を目標とする方針を決定し、引き続き 4 者が一丸となり取り組んでいくことを確認した。

■ 会議要旨

1. 開会（会長 代理出席 小西 大阪府副知事挨拶）

平成 25 年に開催した第 6 回推進本部会議で、27 年度の国内推薦資産選定、29 年度の世界文化遺産登録の目標を確認した。

それ以降、各市における緩衝地帯の設定、文化庁、宮内庁の協力を得た推薦書原案の作成、オール関西での議員連盟の設立、地元市における応援組織の設立等、様々な取組みが進められ、今年は国内推薦資産に選定されるのではないかと考えていた。

残念ながら選定されなかったが、我々の取組みは充実してきており、引き続き世界文化遺産登録をめざして連携していきたい。

2. 議事（本部長の竹山 堺市長が議事を進行）

〔議題 1〕世界文化遺産登録実現に向けた今後の方針について

- ・資料「議題 1」に沿って事務局が説明。

〔議題 1 質疑〕

（小西 大阪府副知事）

- ・国の文化審議会特別委員会で検討課題が指摘されているが、より熟度の高い推薦書作成のために今後どのような工夫をしていくのか。
- ・英文の推薦書作成はどのような体制で行っていくのか。

（事務局）

- ・今年度から、有識者会議の特任専門委員として、ドイツ及びアメリカ出身の考古学の専門家に加わっていただき、英語版推薦書作成のワーキングや推薦書作成検討委員会において、意見をいただいている。
- ・さらに、10 月に開催予定の「第 5 回百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進国際専門家会議」に、イギリス、中国、韓国から世界遺産や考古学の専門家をお招きし、幅広い意見を聞くこととしている。
- ・海外の専門家は、これまで推薦書を作成されてきた方やイコモス等で活躍されている方を中心に人選を行っており、これらの方々の意見を推薦書作成に反映させ、より熟度の高い、また海外の方々にとってわかりやすい推薦書の作成を進めていく。

\* 議題 1 について了承。

[各委員からの発言]

(北川 羽曳野市長)

- ・推薦書作成あるいは情報発信・機運醸成について多くの方々に協力をいただき、ずいぶん充実したと感じている。
- ・古墳への道順を示す案内板の設置等は当市でも取組みを進めているところであるが、古墳をどのように見せるかという点が課題であると思っており、今後府、市とも連携して取り組んでまいりたい。

(國下 藤井寺市長)

- ・国会議員の先生方、市会議員の先生方に議員連盟を立ち上げていただくなど、多くの支援をいただいたなか、今年、国内推薦資産に選定されなかったことを非常に残念に思っている。  
しかし、百舌鳥・古市古墳群は、どこに出しても見劣りしない素晴らしい資産だと自負しており、魅力を一人でも多くの方に感じていただけるよう努めてまいりたい。
- ・先日、高石市長と話した際、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録について、府内全市を挙げて取り組もうじゃないかとおっしゃっていただいた。願ってもないことで、府、各市と取り組んで参りたい。

(竹山 堺市長)

- ・國下市長からもお話しがあったように、オール大阪での取組みが必要であると思っている。  
また、東京で啓発を行うなど、日本全体での取組みも進めていきたい。
- ・古墳群の雄大な姿を感じていただくために、バーチャルリアリティの映像も一つのツールであると考えている。百舌鳥エリアの映像はすでにあるので、古市エリアも含めて1つのバーチャルリアリティ映像を作りたい。
- ・先日、富岡製糸場に行き富岡市長とお会いし、来訪者の受け入れにおける苦勞のほか、市民の間に絹の素晴らしさを受け継いでいくための取組みなどのお話をうかがった。我々も府と3市でこのような取組みをしっかりと進めなければならないと感じた。
- ・この1年が試金石になると思うので、さらに取組みを充実させ、来年は必ず国内推薦を得るという覚悟で頑張りたい。

(小西 大阪府副知事)

- ・今年取組みはかなり充実してきており、選定されなかったことは非常に残念。それほど、世界文化遺産登録における課題は重いものだと改めて感じたところであるが、それだけにファイトも湧いてきている。
- ・みなさんも、おっしゃっているとおり、オール大阪での盛り上げが必要だと思う。大阪府が旗振り役をやらせていただくので、3市の協力をお願いしたい。

(竹山 堺市長)

平成28年度の国内推薦、30年度の世界遺産登録をめざして、4者が一丸となって頑張っていくという決意表明のもと取り組んでいきたい。

以上